られた狂猪は遂に勢に乘して谷川の渡頭まで狂奔して來て、其處で踏み外づしたのが彼の運の盡きドバンと落ち込んで白泡を立つと同時にブー〳〵怒號しながら泳ぎ出した山の王は川に入つては一卒にも及ばぬ、此瞬間に夫れ〳〵と人々手に手に得物を携ゑて、浮きつ沈みつ半ば流れ行く彼を包圍攻擊して、やつと退治してしまつたことがわつた。

何事も知らぬが佛、人生文字を知るは苦しみの基など愚なこともいはるゝが、時には知らない爲に却てさま〳〵の經驗もするものかな。ニーチェの所謂一成功に達するまでは數多のはづかしさを忍ばねばならぬ。といふこともつく〴〵思ひ合さるゝ。併し野猪なども組討を致すものにあまり賢いものがない、吾輩も一度やつて以後は絶然やらないと決心した。

色の話

藤五代策

凡の物体は形と色との二つから成り立つて居る其の形は本體で色は艶である形はよく整ふても色の之れに調和せぬときは美觀を呈せぬのである今左に色に就きてお話し申しませう

色は之を細分すれば學者の話に二三万種からあるさうですニュートン氏は太陽の光線は七色であるを證明せられて世界の凡ての色は皆此の七色から樣々に調合して出來たのであると說かれた其の七色とは赤。黃。青。橙。紫。綠。紺のことである彼の虹は正しく此の七色を見はしてをる吾々が晴天に外に出て淡黑き壁に添ふて霧水を吹くときは明に太陽の光線の七色を認めるをが出來る其他三稜鏡と云ふ器械にて太陽の光線を分折すれば尙一層明かに七色を認め得られるのである今此の七色を一定の順序と分量に由て平面圓板に塗色し之

を劇しく回轉するときは全く白色に見える何と面白い現象ではありませぬか

其後ブリユスター氏出て丶太陽の光線の七色は尙之れを纏めて赤。黃。青の三つの色に歸することを證明され實驗されて世界の凡ての色は皆此の三つの色を種々樣々に調合したものであることを述べられて今日では之れが定說となつてまだ之れを動かす程の實驗が出ないそこで赤。黃。青の三色を母色とか三原色とか又は第一色とか稱へられてをる

此の第一色即ち三原色中の各二色ハ丶は相調和して第二次色を作るのである赤丶黃は調和して橙色となり赤と青とは調和して紫色となり黃と青とは調和して綠色となるのである

次に此の第二次色即ち橙。紫。綠の三複色中の二色ハ丶は亦相調合して三次色となるのです即ち紫と橙とは和して紫棕色となり橙と綠とは和して香橼色となり紫と綠と和して橄欖色となるのです是より亦第四次色五次色と複雜なる色を作るのである左に之れを表にて示しませう

赤黃青＝三原色又は第一色或は單色とも云ふ

（赤＋黃）＝橙
（赤＋青）＝紫
（黃＋青）＝綠
（橙＋紫）＝紫棕色
（橙＋綠）＝香橼色
（紫＋綠）＝橄欖色
＝第二次色又は複色とも云ふ
＝第三次色

二色以上が排列するときは大に引立つ色の配合と極めて靜かに落付きたる配合とが見はれます凡て三原色即ち赤黃青は互に相引立つものである例へば赤の側に青か又は黃が排列するときは何となく卑しく引き立て見へます又三原中色の何れかの二色が調和して成れる色は他の一色に對してよく引立て見へるのである赤と青との調合せる紫は黃に對して引立て見える是等を反對の配合と云ふのです萬綠綾を織りなす中に一枝の姫百合花の笑み

を含めるが忽ち目に見ゆるは全く反對の配合からくるのである私は是に付きて一ッの狂歌を作つたからご紹介します「姫白合の一本ゆゑに夏の野の草はみながら馬鹿げにぞ見ゆ」地圖等の區劃を判明にするには此の反對の配合を用ひねばならぬのです然るに前と相對に青又は黄は綠と對して靜かに落付て見えますが之れは全く綠が青と黄とより生れたからである換言すれば綠と青と黄とに深き緣故を有して居るからである斯の如き配合を同類の配合又は同一の配合と云ふのです我々が大なる呉服店に行きて千種萬態の反物を見るに其の多くは地合の落付きて如何にも高雅に上品に見る者が澤山あるが夫等は皆同類の色の配合によるのである凡て野蠻人は色の觀念がないから凡ての裝飾衣服の飾りまで色の配合が下品に見えて一種厭忌の念を生じますが文藝の進んだ國民は色に對する觀念が如何にも高尚温雅に向いて來るされば婦人の衣服の模樣を圖案するには先づ此の色の配合に付きて深く研究することが肝要である衣服の事に付き今一つ重要なる件がありますから序に申し上げます凡て色のはでやかに縞地の荒らいのは若き男女に適し縞地の細いのは老人に適することは誰もご承知でせう縞の横模樣は身丈を低く見せ縦縞は丈け高く見せますから母姉たるの人ば常に此の考を持つて長け低き子女には縦縞を着せ女子ならば髪を高く結ふてやるのです又余り高過ぎて見苦しい子兒には横縞を着するのです白と黑とはよく調和しますが之れは一種特別である例へば黑地の洋服にホワイトシャツや襟輪胸飾が白雪を欺く樣に見えるけれども少しも下品に卑しく見えない却て品よく見えるは不思議である其他白は何れの色にもよく配合しますが之れは前に述べた如くに白は諸色の程よく調合したものだから何れの色にも緣故を有して斯く調和して見えるのでせう又黑は何れの色をも黑ずみて見せます紫の側に排べは紫を黑ずませ綠の側にあれば

黒綠するのです

金色と銀色とは何れの色ともよく調和しますが之れも白と同じ理で金と云ひ銀と云ひ何れも諸色に綠故を有するによるのである

色には亦刺擊の度の強弱があります三原色は何れも刺擊の度が強いが取分け赤は最も強いのです例へば多くの兒女の一群を遙かに遠方より瞥見するに先づ目につくものは赤のリボンと赤帶である千軍萬馬の整列せる觀兵式に近衛兵の赤帽と騎兵の赤ズボンとは一際目立て強く見ゆるは全く赤色が諸色に勝れて刺擊の度の強いによるのです

赤色は亦非常に殺菌性に富んでゐるから稚兒の襯衣や男女の褌に結べば黴菌を殺して仕舞ふ働きがある

赤色に次で刺擊の強さは黃青橙綠と順に行きますが紫と黑とは刺擊が最弱いのである

色は亦視力に大なる關係を有するものである太陽の光線に向て久しく見濟ますときは視力に異情を來たし或は黑ずみて見え或は青ずみて見える又白色に向て眼を使ふときは次第に視力を損するのである是等は全く白色が太陽の光線を強く反射するからであるそれで學校の教室の壁色は白にしてはならぬ黑色か灰色がよいのです夏期に白衣を着するは全く太陽の光線を反射せしめて熱の直射を減ずる理である之に反して黑色は太陽の光線をよく吸收しますから冬期には黑色の衣服が適宜である

此の外色には亦熱色と寒色とがありますが赤、橙黃は熱色で綠、青、紫、は寒色である熱色は陽性で大に浮き立つ氣味がある寒色は陰性で何となく氣分の沈む性がある元來我邦人は沈み勝ちにて寒色的である之に反して西洋人は浮き立ち勝ちで熱色性である男女共に若きときは熱色を好むば自然であるから衣服調度に至るまで凡ての裝飾が熱色を用ひて居る妙齡の婦女子の赤黃等のはでやかなる色を好むはよき適例である之に反して老人は極めて沈み勝ちなる寒色を好むのである

劇場又は音樂堂の好き陽氣たつ處の室内を裝飾するには熱色を用ひて人心を浮き立たせねばならぬが修身講堂や祭祀場の如き崇嚴なる場處は寒色を用ひて思はず心を改め容儀を正す樣に裝飾を仕向けねばならぬ熱色は亦情誼濃かなる意に用ふることもある一家團欒火を擁して笑語するは不言の間に火なる熱色が一家の情誼を繫いで居る樣に見えるさるに寒色は亦大に薄情冷靜の意を見はして居る人の面貌の蒼白なるは多く薄情冷靜にして奸惡は者が多い今年三月フレベル會にて發行せる紀念繪端書に青色を用ひて卒業生を遠く離れ去りて次第に學校との情誼の薄くなる意を諷してあつた之れは確かに寒色が情の冷かなるを示した一例であるまいか

熱色と寒色との裝飾の仕樣によりて或は熱く感ぜしめ或は涼しく感ぜしめるのである夏季の室内の裝飾を野山の燒ける繪や婦人の紅裙模樣のみ畫き散らしたのは如何に客人をして一層熱く感じさせますから之れは大に寒色を用ひて青松に雪の降り積もれる繪など最好ろしいのです冬季は之れに反して熱色にて畫ける掛物や壁繪こそ客をして温かに感じさすのである

◎處世落第者の資格

彼は何故に用ひられぬか

彼は時計許り眺めて、時の經つことのみ待構へて居る。

彼は始終不平のみ並べて居る。

彼は何時でもグツ〳〵して居る。

彼は自信がない。

彼は無暗に質問する。

彼は常套の申譯は「アヽ忘れました」である。

彼は直く次の仕事の準備をせぬ。

彼は已が仕事に注意が足りない。

彼は失錯つたからとて、後の警戒をするといふことがない。

彼は自分より劣て居る者の中に、友達を求める。

彼は自分の判斷で働くことをせぬ。

彼は研究に身を入れぬ。

彼はその才能を發揮しようとはせずして、何事も遣り放しである。

彼は毎夕何か娯樂がなくてはならぬとして居る。

彼は平素の自墮落のために理想を失つて居る。

彼は金のは入る方を勘定して出す方を制限せぬ。